# "PUBLIC OFFICER'S ONLINE SESSION" "DAY1"

# 【開催日】

11月4日 (水)

# 【主催】

· 宮嶋拓郎 / 長野県庁

#### 【場所】

オンライン会議: Zoom

# 【参加者】

- · 菅野永 / MAKOTO WILL 代表
- ・中村咲輝 / 青森県六ケ所村
- · 島袋陽子 / 沖縄県久米島町
- •室岡康平/愛媛県内子町



# トークセッション

#### 菅野永 (MAKOTO WILL):

MAKOTO WILL代表の菅野永と申します。皆さんの、仕事へのモチベーションの維持や作り方に大変興味を持っております。本日はよろしくお願い致します。

#### 中村咲輝さん(青森県六ケ所村):

青森県六ケ所村政策推進課で、入庁して9年目になります。4年間福祉課に所属した後、一般社団法人地域活性化センターに3年間出向していました。地域活性化センターには本来2年間の出向になっていましたが、木育についてもっと学びたいと思い、1年間延長させていただきました。

現在いる政策推進課では、定住自立圏の仕事や公共交通、婚活事業などに取組んでおり、地域活性化センターで学んだことを活かして何かやりたいと思っています。特に人材育成は大切にしなければならないという思いがあります。仕事とは別でプライベートな活動として、木育にも取組んでおります。

#### 島袋陽子さん(沖縄県久米島町):

私が入庁した久米島は、那覇から西にさらに100 kmいったところにある町です。私自身は茨城出身なのですが、なりゆきで11年前に移住してきて、なりゆきで9年前に入庁することになりました。はじめは総務課で広報を担当していまして、H28年度から移住定住推進担当になりました。

とある研修での出会いがきっかけで公務員の仕事の素晴らしさを知ることになりまして、地域活性化センターのマエガミさんとのつながりがきっかけで、今回の記事を執筆させて頂くことになりました。

久米島町では人口減少が起きていましたが、沖縄県全体としては人口が増加していたので、 移住定住に取組んでいませんでした。そのため、久米島町の移住定住施策は「まず何をしよ うか」ということから始まりました。ゼロから始めることが性にあっていたので楽しみなが ら取組むことができました。現在は、福祉部門で子育て担当を勤めており、やりがい思って 仕事をしております。

#### 室岡康平さん(愛媛県内子町):

愛媛県内子町役場で総務課に勤めておりまして、政策調整班の定住促進係で、移住定住や地域おこし協力隊の担当をしております。内子町が地元で、大学進学で東京に行き、大学院を卒業後にUターンして内子町役場に入庁しました。今年で入庁5年目になります。

今回記事を執筆させて頂いたのは、近年よく耳にする"高校魅力化"について、私の母校での 取組みについて書いております。取組みが行われているとはいえ、全国の有名な高校さんに 比べると、私たちの取組みは存続危機の状態をどうにか回避していこうとしている段階で す。現在では、地元の方や役場職員などが少しずつチームとなって来ており、セクターを越 えた取組みになりつつあります。

# 宮嶋拓郎さん(長野県):

私は長野県庁9年目で、新潟大学農学部卒業後に、農業の技術職として入庁しました。現在は、ジビエ振興やハンターの育成などに取組んでおりまして、仕事外では同世代の県職員と共にヒップホップグループの活動をしています。ヒップホップグループは現在結成6年目で、長野県の魅力をカッコよく発信したいという思いを持っています。最近では活動の中で培った人脈、ライブ配信や動画編集のノウハウを、本業に活かせるようになっていていて、本業のモチベーションも上がってきています。

さて、菅野さん。参加者のみなさんは色々と挑戦されていたりとか、本業の中でモチベーションも高く取組んでいるようです。

「従来の枠にとらわれないこと」は、ここにいる皆さんにとってはもはや当たり前のようで、その上そこに自身自信のエッセンスを加えることで、周囲の人々が想像する以上のことをやりとげているようです。

#### 菅野永(MAKOTO WILL):

そうですね。皆さんの業務に対するモチベーションや自分を突き動かすものなど、自分自身 が変わるきっかけがどこにあったのか、というところをお聞きできればと思います。

#### 宮嶋拓郎さん(長野県): To 中村咲輝さん(青森県六ケ所村)

「木育」を軸に発案から事業化までの仕事をされていますが、「木育」という全く馴染みのないものに関して、おもちゃの資格を取るというところまで、どのようにして興味を深めら

れたのでしょうか?中村さんにとって、モチベーションや自分を奮い立たるような、自分を 突き動かすエネルギーは何だと思いますか?

# 中村咲輝さん(青森県六ケ所村):

自分が変わるキーポイントとなったのは、地域活性化センターに出向した時です。そこで経験した3年間での出会いや日々の学びが私を変えたと思います。

木育にもそこで出会いました。木育を知った当初は、「木で何を育てるんだ?」と、その価値を理解できませんでした(笑)。しかし、地域活性化センターで出会った、「この人の言葉はすごい!」と想える人と話す中で、段々と木育に夢中になっていきました。

木育が好きになっていくに連れて、自分の村についても興味を持つようになり、振り返るようになりました。このような経緯で、木育を自分たちの村でもやりたいと思うようになりました。

# 宮嶋拓郎さん(長野県):

なるほどです。資格取得まで踏み込んだきっかけは何だったんですか?

## 中村咲輝さん(青森県六ケ所村):

村長に対して、特に意図せず「木育というのがあるんですよ。」というのを単に伝えるだけ のつもりでお話したところ、それがプレゼントして通ってしまい事業化することになりまし た。

しかし、私が帰る前に木育が事業化してしまったので、現時点で事業に携われていないんです。どうにかして関われないかと考えた時に、公務員として関わることができないのなら、個人で関わるしかないと思いました。個人として関わるには、スキルや知識、確かなものが必要だと感じ、資格の取得に至りました。

#### 菅野永 (MAKOTO WILL):

本を拝見していると、いろんな方が地域活性化センターがきっかけと仰っていたのですが、 その中身の活動はどんなものだったのでしょうか?

#### 中村咲輝さん(青森県六ケ所村):

活性化センターで地方創生やまちづくりに関する事業をやっていていも、自分が育つことが8割、仕事2割と思うくらい、教育を受ける機会がたくさんあります。毎日外部の人がきて研修を受けたり、自分たちが地域に行って勉強したり、業務時間後の研修に関しては年間100回くらいあります。研修を受けた後には研修ノートを作成します。そのノートを見ながらアワードみたいなものをします。活性化センターでは、そのくらい出向に来た人を育てるということに力をいれています。仕事としてはもちろん、それ以外の活動にも力を入れて、地方に戻って活躍してほしいという思いがあるんです。

# 菅野永(MAKOTO WILL):

なるほど。中村さんの中で、楽しかった研修や思い出に残る研修はありますか?

# 中村咲輝さん(青森県六ケ所村):

地方に行くのが楽しかったです。もちろん無料ではなくて、有料の実践塾です。活性化センターでは、お金を出してでも学びたいという感覚にみんな変わるんだと思います。そのくらい、地方の先進地という想いをもってセミナーが組まれています。その真摯さと楽しさで、いつもよりも気持ちが締まりますし、お金を払ってでも喜んで行きたいと思えるんです。

## 宮嶋拓郎さん(長野県):

中村さん、ありがとうございます。たしかに、お金を払うことで、その出費を安いと思える ぐらい学びを身につけたくなるという気持ちは共感できますね。

# 宮嶋拓郎さん(長野県): To 島袋陽子さん(沖縄県久米島町)

さて、島袋さんにお聞きしたいのですが、公務員という仕事は前例ないことにアレルギーを 持ちがちです。そんな中、島袋さんは、前例のない移住者への情報発信や、仕事のサポート システムの構築などをやってきたようです。記事には書いていませんでしたが、非常に多く の人を巻き込んで仕事を進め、関わりが増えた人たちが各々主体的に動くという流れを作っ たのが、島袋さんなのではないかと思います。

前例無しというハードルを余裕で越えて、多くの人を巻き込んでミッションに取組む。このような取組みを行っていくときに、そのスタート時点ではどのようなことを意識されていたのでしょうか?

# 島袋陽子さん(沖縄県久米島町):

実は自分は全然すごいことをやっていなくて、たまたま一緒にいた人が凄いだけだったんです。私が産休から復帰した時に、「あなたは移住担当ね!地域おこし協力隊はもう3人決まってるから、よろしくね!」ということを言い渡されました(笑)

その3人の地域おこし協力隊の内の一人が、石坂君という方でした。もともとは海士町の、めぐりの輪というところで働いてた方なのですが、その人がガンガン街を変えてくれました。私のやったことと言えば、石坂君の発案を上に通すこと、周りの活動に予算をつけたり稟議を通したりということだけでした。とにかく、石坂がすごい(笑)

町民の方が自主的にやりたいことを応援しようと考えたのも石坂君。海士町の戦略の時にそのような手法をとっていたといいます。結局、アクションプランを作ってもやらないなら、町民の方がやれる・やりたい・やるべきを役場は応援しようというのがこのアイデアの基本的な考え方です。

#### 宮嶋拓郎さん(長野県):

なるほど。島袋さんは何もやっていないと仰ってはいますが、コーディネーター的な役割を されているのだと思います。

# 菅野永 (MAKOTO WILL) :

研修が一つきっかけにあったというお話がありましたが、これも活性化センターでしょうか?

# 島袋陽子さん(沖縄県久米島町):

その研修は活性化センターとは別で、沖縄県の政策形成セミナーという研修です。この政策 形成セミナーで、浦野さん(元役場職員で現在は地域づくりのコーディネーター)という方 と出会ったことがきっかけで、落ちこぼれからやっと普通の公務員になれたのだと思います (笑)

この研修は沖縄県の南部地区の若手が行くもので、"南部市"という架空の市を作り、政策を考えるというものです。セミナーの中で、浦野さんの講義を受けた時に、それまで全く興味のなかった公務員という仕事に対して、「公務員って、電卓をはじいてるだけじゃないんだ。こんなにも地域を変えることができるんだ。」ということに気づき、衝撃を受けると同時に、公務員という仕事に対してもっと誇りをもって取組もうと思うようになりました。

#### 宮嶋拓郎さん(長野県):

室岡さんは、まさにコーディネートをされていますが、いろんな人をつなぐとか、今までにないつながりを作るとか、そういったものは行政の仕事の醍醐味なのかなと思っています。そんな醍醐味を知って、その成功体験を得ることで、ドンドン仕事に熱が入っていくのだと思ってます。しかし、その成功体験を一回も持ってない人からすると、いろんな人を繋いだり、今までにない繋がりをつくるということは、労力のいることだと思います。室岡さんの場合、最初の労力を越える際にどういう気持ちで始めたのですか?

# 室岡康平さん(愛媛県内子町):

私の場合、スタートが母校だったので、既に思い入れがあった状態から始まりました。東京の大学に在学していた時も、内子に帰るたびに職員室によったり、授業に呼んでもらって大学の様子を伝えたりなど、高校卒業後も繋がりと愛着がありました。そんな中、内子の人口減少や、学校への入学者減少などに対して悶々とした思いを持っていました。

しかし大学3年生の時、島根県の海士町に行く機会があり、「こんな取組みがあるんだ」という発見に出会いました。しかし、そのような成功事例になるのは内子町ではまだまだ先の話ですし、すぐに結果が出るとは限りません。しかし、海士町ではすでに結果が出ているというのが事実なのだから、自分たちに出来ないという理由は、全て言い訳にしかならないと思ったんです。全国では既に色々やってる方がいらっしゃるので、自分にも出来るはず、自分が諦めちゃったら何も始まらない、そのような気持ちから始まりました。

# 宮嶋拓郎さん(長野県):

なるほど、"必要性を感じたこと"、そして"自分に出来ない理由はない"という想いから始まったということですね。

室岡さんには無意識的でしたが、この"必要性"こそがモチベーションではないでしょうか? この当たりに、仕事に熱が入る秘訣があるんじゃないかと思います。

室岡さんありがとうございます。それでは、一通りお話が終わったと思うので、次は中村さん、島袋さん、室岡さんが、お互いに何か聞いてみたいことなどはありますか?

## 室岡康平さん(愛媛県内子町):

島袋さんにお聞きしたいのですが、仕事を創るとはどんなことですか?

# 島袋陽子さん(沖縄県久米島町):

これも石坂くんの話なのですが、彼は地域外にお金が流出しているという点に課題意識を 持っていました。役場や観光庁の仕事でも、島外の印刷業者やデザイン業者に発注すること がありました。

これを地域内に発注することが出来れば、地域内経済が循環するはず。ただし、島にはスキルが足りない。そこで、チームを作って受託できるようにするために、「副業ギルド」を立ち上げました。そのギルドの中で、スキルアップの研修会や営業活動などをやっています。

#### 宮嶋拓郎さん(長野県):

沖縄には資源が豊富にあると思いますが、人材資源やシステムといった点が不足しているため、地域内で仕事を回すよりも、地域外に任せた方が効率がいいということになってしまうのかもしれませんね。その問題に対して、チームとしてスキルアップして、仕事を受託できる組織「副業ギルド」を立ち上げた、ということですね。

# 中村咲輝さん(青森県六ケ所村):

仕事へのモチベーションに関して皆さんにお聞きしたいのですが、活性化センターでは毎日がいろんな情報で溢れ、周囲の人も学びに燃えていたので、私も当然モチベーションを熱を持って取組むことが出来ていました。しかし、最近は学ぶ機会が少なくなってきていて、当時のような成長機会、活動へのモチベーションといったものをどのように補っていけばいいのか、という悩みがあります。皆さんは、お仕事や個人の活動のモチベーションを保つために、どのように学びや刺激を得ているのでしょうか?

# 室岡康平さん(愛媛県内子町):

個人的にはオンラインの場が大きいと思います。2年前に、島根大学の地域教育コーディネーター養成講座みたいなものを受講させてもらったのですが、それは1年間オンライン形式のカリキュラムでした。

#### 宮嶋拓郎さん(長野県):

僕はhip-hopグループをやっていて、ある意味公務員の中では目立つことをあえてしています。「人目にさらされる」というのが、自分をコントロールする一番の方法だと思っているからです。一時期、県内メディアによく取り上げていただく次期があって、その頃に、人目に触れる、人に意識される、というような立場に自分が置かれることで「なまけられない」という気持ちになることが分かりました。外的な要因で自分を追い込むことで、無理やり奮い立たせているといった感じです。僕の中のパンチラインは、「人目に触れて晒され、自分を律する」というこで、それが仕事のモチベーションにもなっています。

菅野さんと以前Zoom飲み会をした際に、「モチベーションの維持には、多くの自治体職員の方が課題に感じている」ということでした。ここにいるスーパー公務員のような人達も意外にモチベーションの維持で苦労されているというのが意外でした。

#### 菅野永 (MAKOTO WILL) :

MAKOTO WILLでキャリアに関するセミナーを開催した時、その時は150名もの方にご参加頂いきました。セミナーを開催してみて、自治体職員の方々はキャリアについての悩みももちろんありますが、モチベーションの維持向上ということも強く求めていることが分かりました。

僕こそ腐れ公務員だったので、今の優秀な若手職員の「モチベーションが上がらない」という問題は、国にとっても大きな損失だと思っています。日本全国の1741自治体の職員が、仕事にやりがいをもって、彼らが持つ能力がフル活用されることによって、日本はガラッと変わると思っています。だからこそ、コミュニティを立ち上げたいと思っているんです。

#### 宮嶋拓郎さん(長野県):

今回初めての座談会でしたが、スーパー公務員と言われる皆さんも、「意外に裏では各自悩みながらやってんな」と知り、ゾクッとしました(笑)。ちょっと前は、週末に変わったことをやってる人が、もてはやされるやされる時代がありましたが、今となっては公務員でもそれぞれの世界を誰もが持ってるいるようです。そういった週末の個人的な世界のために働くんだというのではなく、そこでの熱を公務員の仕事に活かせた方が、人生がより豊かになるはずだと私は思っています。また菅野さんへの提案として、「誰でも共感できる公務員の仕事術」のようなものを共有できる場をつくるのはどうかなと思いました。

#### 菅野永(MAKOTO WILL):

今日の座談会もオンラインじゃなければあり得ない顔ぶれですからね(笑)

オンラインで地域の課題を越えやすいからこそ、そのようなコミュニティでし提供できないものがあると思っています。

オンラインコミュニティで、モチベーションの形成・維持のような目的があった時に、「こういう平場で、こういうテーマでフラットにディスカッションしたい」というように、どういった場を求めているのでしょうか?

#### 島袋陽子さん(沖縄県久米島町):

先進地のキーパーソンの話を聞きたいです。私自身、石坂くんというキーパーソンの黒子役のようなポジションなので、キーパーソンの黒子役のお話も聞きたいと思いました。黒子役は表に出て来ませんが、公務員はむしろそっち側を演じることが多いと思うので、とても勉強になるテーマだと思います。

#### 室岡康平さん(愛媛県内子町):

組織内で昔からある仕事なら、近くの人に居裕・相談で解決できると思いますが、協力隊や ふるさと納税といった割と最近の制度については日々悩みながら事務をしている人が多いと 思います。最近では、協力隊の担当職員でスラックを使ってコミュニケーションをとってみ ようという話もあります。職員だったら事務にて事例は共有されますが、そのコミュニティ を作る事務方に対して、参加者側が共有できる場が欲しいなと思います。

# 中村咲輝さん(青森県六ケ所村):

今回のようにいろんな方が集まって、一人の悩みを徹底にクリエイティブに考えて、飲みながらでもいいから議論して、おもしろく解決できる方法を考えるという時間も欲しいです。 事例を知ることも学びではありますが、自分の思考をクリエイティブにしていく練習も必要だなと思っています。

# 宮嶋拓郎さん(長野県):

今日いただいた意見を、菅野さんが確実に形に変えてくれるはずだと信じています(笑) こんな特集されるレベルの人からディープな話を聞けたので、是非とも形にしたいですね!

皆さん本日はありがとうございました!